

知っておこう!

健康診断の

監修: 石川 隆氏
丸の内クリニック 院長



第23回

ウン?・ホント! 人間ドック学会の「基準範囲」報道について

康子(ヤスコ)さんは夫の会社員、健(タケシ)さんに人間ドック学会の基準範囲のことを聞いています。今回はあらためてこの報道を振り返りましょう。

1

新聞や雑誌を賑わした 人間ドック学会の「基準範囲」って何だったの?

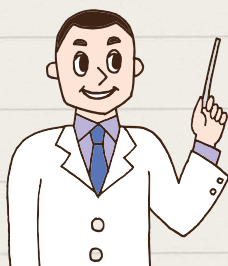
この春の、高血圧や脂質の基準範囲が緩和されるっていう報道は本当なの?

ヤスコ
康子さん
主婦(35歳)



発表の後、健康診断の基準範囲が変わるって話題になっていたけど実際はあまり変わらないようだね

タケシ
健さん
会社員(40歳)



今年4月、日本人間ドック学会と健康保険組合連合会(健保連)が発表した「新たな健診の基本検査の基準範囲 日本人間ドック学会と健保連による150万人のメガスタディー」¹⁾は、その後新聞や雑誌で「健康基準範囲が緩和される」などと報道されしばらく

タディーが150万人のデータを取り扱っているからといっても、発表内容については慎重に検討する必要があります。これまで高血圧や脂質に関しては多くの疫学研究のデータの積み重ねがあり、日本の高血圧学会や動脈硬化学会だけでなくWHOなど世界標準の基準があるわけですから、それらを否定するデータではありません。

まず今回の「基準範囲」を決める上で、スーパーノーマルと呼ばれる健診基本検査27項目の検査で「異常なし」の

騒がれていました。

報道では高血圧の基準範囲が147/94、脂質も男性でLDL-Cの上限が178など、これまでの日本高血圧学会や動脈硬化学会のガイドライン(血圧140/90、LDL-C140)とは異なる数値だったこともあり、相次いで諸学会から批判が起きました。実際に臨床の現場で高血圧や脂質異常症の治療に当たっている医師も、内服薬を処方されている患者さんから質問が出て対応に追われたほどです。

この報道はプレスリリースとして行われ、研究内容が日本や欧米の雑誌に掲載されたわけではありません。メガス

表1 「基準範囲」算出の元になった“スーパーノーマル”

- | | |
|--|-------------------|
| 1 既往歴に悪性腫瘍、慢性肝疾患、慢性腎疾患などのない者、ないしは入院歴のない者 | 4 BMI値が25未満 |
| 2 退院後1か月以上経過している者 | 5 喫煙なし |
| 3 現病歴で下記の事象がない者
●薬物の常用(高血圧、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症などの疾患の治療のため)
●B型肝炎あるいはC型肝炎 | 6 飲酒1合/日未満 |
| | 7 血圧130/85mmHg未満* |

*血圧とBMIの“基準範囲”はそれぞれ血圧・BMI以外の条件で選んだ集団から算出

人が標準として選ばれました(表1)。このスーパーノーマルの人が現在「健康」であるとしても将来もずっと「健康」であるという保証はなく、1項目や2項目で基準範囲を超

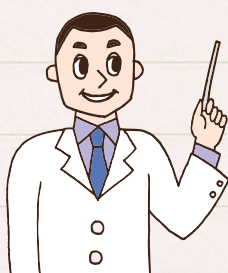
えた人たちと差があるのかも不明です。そのため27項目すべて「異常なし」の人がこのように呼ばれることに違和感をもつ臨床医が多数いるのも現状です。

2 「基準範囲」を算出する検査項目にはどんなものがある？

「基準範囲」を算出する元になった検査項目ってどんなものがあるのかしら？



検査項目にも重要な項目とそうでない項目があるようだね



今回の「基準範囲」を算出する元になった検査は全部で27項目です(表2)。これらは人間ドックなどで一般に行われている検査項目ですが、重要性の比重はそれぞれの項目によって大きく異なります。

血圧、BMI、空腹時血糖あるいはHbA1c、脂質などは高血圧、糖尿病、脂質異常症といった疾患にかかる人も多く、他の検査項目とくらべ極めて重要なものとしてあげられています²⁾。

ところがその一方で、人間ドック学会が「健康診断や人間ドックで必須項目とはいえない」(平成14年度 人間ドック成績判定及び事後指導に関するガイドライン作成小委員会)と発表している総蛋白、アルブミン、総ビリルビン、アルカリホスファターゼ(ALP)なども含まれており矛盾が感じられます。が、重要度の低い検査という扱いで加えた

表2 対象検査項目

●収縮期血圧・拡張期血圧	●Friedwald式によるLDLコレステロール	●γ-GTP
●BMI	●nonHDLコレステロール	●アルカリホスファターゼ(ALP)
●総蛋白	●中性脂肪	●赤血球
●アルブミン	●空腹時血糖	●ヘモグロビン量
●クレアチニン	●HbA1c	●ヘマトクリット値
●尿酸	●総ビリルビン	●MCV
●総コレステロール	●AST	●白血球数
●LDLコレステロール	●ALT	●血小板数
●HDLコレステロール		●eGFR

とも受け取れます。

今回の発表の中では性差や年齢差(30~44歳、45~64歳、65~80歳で区分されている)で基準範囲が異なる検査項目のあることが示されています。これに関してはもちろん性別や年齢でそれぞれの基準範囲を考慮する必要があります。

人間ドック学会は今回の報告書の冒頭で「現在の血圧、BMI、血液検査などの基準範囲は健診機関によりまちまちである。したがって、全健診機関で適用範囲可能な基準範囲の設定が望まれる」と述べ、今回の基準範囲を発表しましたが、従来人間ドック学会が毎年4月1日に改訂して発表してきた各検査項目の「判定区分」については、今年4月には特に変更されず、突然、新基準範囲が告知されたのです。

「判定区分」は長い間各健診機関で採用されたり参考にされたりしていますが、そのままの適用にはまだ課題が残されているのも事実で、今回の発表となりました。来年の「判定区分」が新しい基準範囲についての反応を考慮して、変更があるのか注目されるところです。

参考文献:1)新たな健診の基本検査の基準範囲 日本人間ドック学会と健保連による150万人のメガスタディー
2)Mindsガイドラインセンター「最新の科学的知見に基づいた保健事業に係わる調査研究」基本的健康診査の健診項目のエビデンスに基づく評価に係わる研究 健診項目評価要約版 Ver.1.5 平成17年度 分担研究報告 分担研究者 福井次矢 (<http://minds.jcqhc.or.jp/n/med/4/med0051/G0000137/0001>)

Mini Column

人間ドックで重要ながん検診

今回人間ドック学会の基準範囲で話題になったのは、主に生活習慣病といわれる高血圧、糖尿病、脂質異常症などの検査で、血圧、体重、血液検査の項目が中心です。これらの項目が基準範囲に入っていたからといって働きざかりの年齢に多いがんの検診はおそろかにできず、「健康」と思っている人の中にもがんをもっている人がいます。

平成25年の人口動態統計によると死亡数を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物で36万4721人、第2位は心疾患19万6547人でした。年齢が高くなると悪性新生物の占める割合が多くなりますが、男では65~69歳で、女では55~59歳でピークとなります。早期発見が有効とされる、胃がん、大腸がん、肺がん、子宮頸がん、乳がんなどの検診は必ず受けましょう。